

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795700026		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 四條畷(1)		
所在地	大阪府四条畷雁屋北15-16		
自己評価作成日	平成30年7月21日	評価結果市町村受理日	平成30年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JirvosyoCd=2795700026-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の福祉理念「ご利用者本位の優しさで真心のこもったサービス提供」 たのしい家四條畷の理念 ①日々の生活の中で、季節のうつり変わりを感じて頂ける施設 ②職員と一緒に地域の中で新たな楽しみと生きがいを見い出せる施設 ③心から「ほっ」と出来る笑顔あふれる施設 職員全員で理念に基づいた施設づくりをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域との交流を大切にしており、職員は地域の会合に参加して情報を得たり近隣の小学校の運動会に利用者で見学に出掛けたり他、近隣の保育園の園児とも毎月交流しています。また事業所で実施する秋祭りや月1回開催する認知症カフェには地域の方の多くの参加を得ており地域との関わりを深めています。日々の食事は利用者にも出来ることに携わってもらいながら作り、月1回は利用者の好みも取り入れたオリジナルの献立で食事を提供し職員も同じテーブルを囲み談笑しながら食事をしています。職員の離職が少なく馴染みの職員で支援に取り組んでおり、行事毎に利用者の思いを聞き取る機会を設け支援に反映し、また家族には面会時に介護記録を確認してもらったり連絡帳やヒヤリハット報告等で詳細を伝え信頼関係の構築に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りでコンプライアンスマニュアルと経営理念、施設理念の読み合わせを継続して実行しています。	開設当初に作成した独自の理念は、職員の入職時に法人理念と共に事業所理念に込められた思いを説明し、朝の申し送りの時に唱和をすることで意識付けを行っています。日々の中で利用者が何を必要としているかを考え、カンファレンス等で話し合いながら笑顔で暮らせるように支援に取り組み理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、敬老会等は地域の方々・子供会にもご参加いただけるよう案内を出しています。地域の行事にも積極的に参加しています。(盆踊り、だんじり)日常の散歩や買い物も地域資源を活用しています。	自治会に加入し、1～2ヶ月に1回地域の会合に参加し情報を得ています。近隣の小学校開催する地域の運動会を観に出掛けたり、月1回近隣の保育園の園児との交流を楽しんでいます。事業所での秋祭りには近隣の方を招いたり、毎月認知症カフェを開催し地域との交流を深めています。また定期的な書道やパステルアートのボランティアの来訪もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と地域や室外に出で行く事・認知症カフェを開く等で認知して頂き、地域の方々にも理解してもらおう様取り組んでいます。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見や意向や質問には適時対応させていただいております。(ボランティアの導入等)	会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1回開催し、利用者の現状や活動、事故報告を行い意見交換をしています。意見から事故やヒヤリハット報告を前月分だけでなく2か月分行ったり、感染症の情報や転倒等についてアドバイスをもらう等会議を運営に活かしています。議事録と会議の案内は全家族へ送付し内容を伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、社会福祉協議会、高齢福祉課の方々から情報を頂いたり、ご相談にのって頂いたりしています。 ・包括から認知種カフェの紹介 ・ご利用者の金銭管理の相談	運営推進会議の議事録の提出や手続きの際には市の窓口へ訪問し、運営上の不明点等の確認は広域連合の窓口へ聞いています。また定期的に開催される市主催の地域部会や事業所連絡会に出席し行政と協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・身体拘束適正化委員会を通じて身体拘束の理解を深め、法人の指針にもある拘束をしないケアに努めています。	年1回法人の身体拘束に関する研修に職員代表が参加し事業所で伝達研修を行い報告書を提出してもらっています。また運営推進会議の中でも委員会を開き身体拘束の事例を話し合っています。言葉かけによる制止が見られた場合はその都度注意し、利用者の安全上センサーマットを使用する場合は必要性の検討を行っています。外出希望の利用者には出来るだけ一緒に出掛けたり外気浴を行う等気分転換を図り閉塞感を感じ無いよう支援に努めています。	

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて、理解を深めています。社会的な事件や法人内での虐待事例について話し合いを持っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を通じて理解を深めています。 現在施設内で後見人制度を利用されている方もおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、会社・事業所の理念、運営方針、料金等の説明を十分に説明をし納得頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設来訪時、運営推進会議の時ご意見やご要望を出して頂いています。法人で年一回満足度アンケートも行っております。	利用者からは日々の関わり合いの中や行事毎に思いを聞き、家族からは面会時や法人で年1回実施する満足度調査で意見や要望を聞くように努め、また運営推進会議に利用者や家族の参加があり意見を得ています。利用者の希望する食事を作ったり、家族の要望により便りを送付するタイミングを月初に変更し事業所の1か月の予定を伝える等、意見や要望を運営に反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業者内で月一回会議を開催し従業員の意見や提案を聞いています。法人内で従業員満足度アンケートも行っています、他に『業務改善提案書』従業員から直接社長へ行くものもあります。	月1回の全体会議やフロア毎の会議で職員から意見を聞き、会議に不参加の職員には事前に議題を伝え書面等で意見を出してもらっています。行事の企画、運営や預かり金の集計、物品等の発注を職員に任せたり、意見を受けて勤務体制を調整する等運営に反映しています。また、法人で行う従業員満足度調査や年2回の個別面談等意見を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度として『誰伸び人事考課』を採用しており、マイナスではなく昨年より伸びた部分の評価をしています。 事業所単位の業績により、業績一時金を支給されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のキャリア段位認定制度を採用しています。 個人での目標設定をしてトレーニングや研修受講を促しています。		

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHの管理者・計画作成担当者・フロアーリーダーの会議・研修が定期的開催されており、情報交換や勉強会によりサービス向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や発言に注意を払い、安心できる雰囲気づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を必ずして頂き、施設の雰囲気や職員の対応等を実際体感していただき、不安な事や要望を出来るだけ伺ったり、言いやすい雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状等を伺い、必要と思われるサービスを導入をしています。 他サービス利用も含めた対応が必要であるケースは見られていません。入院によりADLの著しい低下で入居希望される方が多くご家族の負担増大しているケースがほとんどでした。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を見極め、出来る事はご自身でして頂き、出来ない事だけを支援させて頂いています。また、人生の先輩として尊敬し、その人らしさを引き出す様な声掛けや対応に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にお聞きした生活歴や職歴、ご本人の望むことを施設で生かせるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を幅広く設け、馴染みの関係を継続できるよう努めています。ご本人やご家族から情報収集し馴染みの場所へ出かけたりしています。	知人や親戚、孫等の来訪時には居室やリビングに案内し、お茶や椅子を準備しゆっくり過ごせるように配慮しています。職員と馴染みの商店街や公園に出掛けたり、家族と自宅に帰ったり、法事や墓参り等へ出掛ける際には服装や薬の準備等の身支度を支援しています。年賀状の代筆や電話の取次ぎ等も行い、馴染みの人や場との関係継続の支援をしています。	

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子観察し雰囲気をみて職員が間に入ったり、孤立しないように、声掛けや雰囲気づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても関係性を大切に出来る様努めています。ご相談には随時対応できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が出来るように毎日のコミュニケーションから、ご本人の希望を感じ取ろうと努めています。	入居時に病院や施設等に訪問し面談で生活歴や身体状況、思いや希望等を聞き、以前に利用していた施設やケアマネジャーからも情報を得て意向の把握に努めています。入居後は日々の利用者との会話や行事毎に思いを聞いたり表情からも希望や思いを汲み取り、困難な場合には家族にも相談したり職員間で本人本位に検討して思いや希望の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に生活歴等を聞くようにし、施設でも継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のカンファレンスで一人一人の1日の過ごし方を検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間のカンファレンスや訪問ドクター、訪問看護師、ご家族のご意向や意見を聞き、ご本人のニーズにあった計画を立てています。	本人や家族の思いやアセスメントを基に作成された介護計画は入居後初回は1か月で見直し、その後は6か月毎に見直しをしています。また3か月毎に職員間で話し合い利用者の状態に変化があれば随時見直しをしています。見直し時にはモニタリングや再アセスメントを行い事前に聞いた家族や医師、訪問看護師の意見を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録による各ご利用者の把握と事故報告書やヒヤリハット報告書も両ユニットで情報共有して計画書への反映や事故防止に努めています。		

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な思考を養う事や問題解決能力を養う研修を行いサービスの質の向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。運営推進会議や地域採用の職員、広報誌、掲示板、商店街のポスターなどで地域の情報を収集しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる月2回の内科受診をして頂いています。緊急の対応や他科は紹介書が書いていただき適切な医療を受けられるよう努めています。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か、事業所の協力医に変更するかを選択してもらっています。かかりつけ医や専門医の受診は家族による対応を基本とし必要な情報は書面や口頭で伝達しています。協力医による往診が月に2回あり、24時間診療所の看護師に連絡が可能な体制で協力医による随時の往診も可能となっています。必要に応じて月1回精神科や週1回歯科による往診があり、また週1回訪問看護師による健康チェックを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康管理をして頂いています。職員との連携、ドクターとの連携をとって頂きご利用者の体調の変化に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームドクター、施設から情報提供しています。退院時も訪問看護師と連携をとり退院時カンファレンスを実地しています。入院～退院～施設帰所の環境変化によるご利用者のダメージが出来るだけ少ないように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期指針の説明をしています。終末期にはご家族・ドクター・看護師・職員とカンファレンスを持ちチームでのケアをしていきます。	入居時に重度化対応・終末期ケア対応に係る指針を基に家族へ事業所として対応可能なことを伝え意向を確認しています。重度化が進んだ際には医師から家族へ説明をもらい再度意向を聞き、家族と医師、職員で話し合い体制を決定しています。支援の際は医師に対応方法を聞いたり、家族の面会の機会を増やす等の協力をもらい支援に取り組んでいます。年1回法人で看取り研修があり、職員の代表が参加し事業所で伝達研修を行い知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急時対応研修と消防署による緊急救命講習の受講も推奨しています。		

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実地と緊急時のマニュアルを職員に周知し携帯しております。	訓練は年2回それぞれ昼夜想定で実施し、内1回は消防署立会いの下行き、利用者も一緒に参加し通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しています。訓練実施時には近隣へ告知を行い参加を呼びかけ、消防からは避難方法等のアドバイスももらっています。また備品や3日分の食料を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのご利用者様に敬意を持ち、その方々に寄り添い尊厳と尊重を忘れないよう対応させていただいていますが、安全を第一に考えています。	法人で接遇マナーや権利擁護、認知症に関する研修を職員代表が受け、事業所で伝達しています。なるべく敬語で話をするように職員に伝え、苗字での声かけを基本とし、利用者を尊重した関わりを考えながら支援するように伝えています。不適切な声かけがあればその都度管理者が注意し、入浴時や排泄支援時には周囲にも気を配り、希望があれば同性介助を行う等羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を傾聴し、ご本人の思いや希望をお伺いするよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のしたいことをコミュニケーションから引き出し、希望を叶えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問理容を利用し整容に努めています。毎日お化粧をされる方の支援もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を出来るだけしていただいています。配膳、下膳、食材切り、畑からの収穫での調理などをさせていただいています。季節行事にあった食事の提供もしています。	業者から献立と食材が届き事業所で食事を作り、月1回は利用者の希望を聞き事業所で考えた献立で食事作りをしています。利用者には野菜を切ったり、皮むぎ等の下拵えや米とぎ、配膳、後片付け等できることに携わってもらい、職員も同じテーブルで一緒に談笑しながら食べています。おやつを手作りしたり、寿司の出前や外出行事に合わせて外食をする等、食事を楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し変化のある方は医療と連携をしたり、栄養状態が偏らないように努めています。		

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。週1回訪問歯科より口腔ケアに来ていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄能力を見極め、個々の排泄パターンを考慮し声掛けや誘導の介助を行っています。	日中は立位の取れる方はトイレでの排泄を基本とし、利用者毎に排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、表情や行動等の様子を見ながら支援し、夜間はポータブルトイレの利用等利用者に応じた支援をしています。会議で個々に応じた排泄用品の種類や排泄支援の方法を検討し、退院後は入院前に戻れるよう排泄状況の改善を図ったりや現状を維持出来るように支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、レクリエーションを行い体を動かしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日にて入浴日を決めていますが、本人の体調や希望に応じて柔軟に対応しています。	入浴は週2回を基本に午前中を中心に支援していますが、希望に応じて回数を増やしたり時間帯を変更して午後入浴も可能です。入浴拒否が見られる利用者には日時を変えたり入浴剤を使用する等工夫して無理なく入浴してもらっています。好みのシャンプーの使用や季節の柚子や菖蒲湯を楽しんだり、湯は1人ずつ交換しゆっくり会話も楽しみながら入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、入眠して頂いたり、昼夜逆転にならないように注意し安心して休んでいただける様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が確認できるようにしています。薬の変更などは申し送りや伝達しています。薬の副作用やその後の症状についても薬局や医師との連携をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の作業を共同ですしています。楽しみのある生活をしていただけるよう、書道・パステルアートのボランティアや地域の行事参加やベビーセンターとの交流等しています。		

グループホーム たのしい家 四條畷(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨の日以外は毎日散歩や買い物に出かけています。ご家族との外出も進めています。	気候の良い時期には散歩や買物に出掛け、初詣や桜の花見、紅葉狩り等の季節に応じた外出にも行っています。また、事業所の庭に出てバーベキューをしたり、お茶を飲む等外気浴を楽しんでいます。また地域の運動会に出掛けたり、家族と一緒に外出や外食に出掛ける利用者もいる等、出来るだけ外出の機会を多く作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設にてお預かりしています。ご自身で少額の現金をお持ちの方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはしています。ご本人が希望されれば電話をかけていただいています。年賀状・暑中見舞いを書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はご利用者様と一緒に毎日しております。庭や玄関や畑に季節の草花をそだてたり、施設内の装飾を月替わりでご利用者様と創ったりしています。	七夕の笹飾りやクリスマスツリー等の飾りや季節毎に利用者と一緒に作った貼り絵や利用者が書いた習字の作品を掲示して温かい雰囲気を作っています。椅子やテーブルは利用者同士の相性も考慮して配置し、トイレの表示も色を変えて場所が分かりやすいように工夫しています。温湿度計を設置して利用者の体感も考慮して室温を調整し、毎日利用者もモップ掛け等に携わりながら掃除や換気を行い快適に過ごせる共有空間を作り努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はフロアで過ごされることが多いですが、ソファーに座られたり、食席でテレビを観たり、自室で過ごされる方自由にされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時に馴染みのあるものをお持ちいただいています。入居後は行事の写真や皆で作った制作物等を飾ったりしています。	入居時に家族に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、これまで使っていたテレビや鏡台、大切にしている家族の写真や仏壇、ぬいぐるみ等を持ち込み、配置は家族と相談しながら行っています。趣味の編み物の道具や相撲の番付表等を持ち込んでいる方やこれまでの習慣に合わせて布団を敷いて休む方もいます。また毎日換気や利用者も出来る事に携わりながら清掃を行い快適に過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名前を付けています。		